



# 高齢者の暮らしを考える

現在の日本は高齢化が進むとともに、総人口も減少し始めていることをご存知ですか。

松阪市も例外ではありません。松阪市の高齢化率は28%を超え、市の人口も徐々に減少し始めています。このような状況の中、高齢者を取り巻く環境も変化をされており、高齢者がこれからも住み慣れた地域で生活を続けていくためには、医療や介護などの公的なサービスの充実だけでなく、地域における支え合いの充実が求められています。

今年8月、高齢者がいつまでも安心して暮らし続けるまちの実現に向けて、高齢者の生活を支える市の取組みの現状や課題などを市民の方に伝え話し合う意見交換会を開催しました。

## 松阪市介護保険事業意見交換会

### 「持続可能な介護保険制度を目指して」



介護保険事業計画について  
教えてください。

介護保険は、それぞれの自治体が国の基本方針に従い、3年毎に介護保険料や介護サービスの整備などについて計画を定め運営します。今年はその3年間(平成30年度〜32年度)の計画を作る年となります。少子高齢化の進展と人口減少が

始まった今、年々高まる医療や介護のニーズに対して医療や介護の限られた人

材や資源を有効に活かしていくことと、地域で支え合うことができるまちづくりを進めることが必要です。

このようなことから8月19日から26日にかけて、嬉野振興局、飯高振興局、そして産業振興センターの3ヶ所で、地域の皆様に現在の松阪市の介護保険や高齢者の生活を支える取組みの状況をご説明し、最後にはご参加いただいた方々の意見交換をさせていただきました。

医療や介護を通じての  
地域づくりのために  
何が必要ですか。

例えば要介護認定者数が今よりも増え、介護サービスの利用者が増加すると、サービス利用に対する保険給付が増え、結果的に介護保険料の値上げにつながっていきます。今後も介護を必要とされる方が必要なサービスを受けられるよう現在の制度を維持するためには、介護サービスの適切な利用による要介護状態の維持や改善に向けた取り組みや、できる限り介護や介助を必要とせず健康に生活を送るための若い年代からの取り組みが必要です。

介護保険事業計画と聞くと、若い世代や高齢でもお元気な方にはあまり関係ないものだと思われがちですが、実は地域の皆さま一人ひとりにとても関わりのあることなのです。

地域に住む一人ひとりが、  
自分たちの問題だととらえる  
ことが大事なのです。

先程もお話しましたが、計画の中で定める介護保険料は、地域にどれだけ介護を必要とする方がみえるのかを見込んで決定します。つまり、いま介護や介助を必要とされていない方々が自身の将来の健康の為に取り組みを始めることが、将来の介護保険料の上昇抑制にもつながるということです。5年後や10年後のためにどうすればよいのかを考えていただくよう、市民の皆様へお伝えしていくことも大きな課題だと思っています。様々な世代の多くの方に、このような意見交換会や日々の生活から、医療や介護を通じての地域づくりに取り組んでいただければと思っています。

また、今年の12月から来年の1月にかけてパブリックコメントにおいて来年度からの介護保険事業計画案に対して意見を募集いたします。高齢化が進む社会の中で、高齢者そして地域住民全員が安心して生活をしつづけるまちの実現に向け、たくさんのご意見お待ちしております。

